

# コロナ禍における学生の学習活動(2) - 2022年7月調査の報告 -

西本 佳代 (大学教育基盤センター准教授)

## 1. はじめに

本稿の目的は、2022年7月に実施した遠隔授業に関するアンケートの調査結果を分析し、コロナ禍における香川大学生の学習活動の一端を、遠隔授業との関係に着目しながら明らかにすることにある。

世界的に広がった新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により、本学でも、2020年度第1クォーターより、対面授業は行わず遠隔授業とする基本方針が示された。しかし、2020年度後期以降は、段階的に対面授業を基本とする方針へと移行し、2021年度の授業開始のタイミングで「対面により実施することを基本とする」と通知文書にも明記された<sup>1)</sup>。その後も対面授業を基本とする方針は継続し、原稿執筆現在 (2022年11月)、遠隔授業は、感染防止上困難な場合、あるいは教育効果が認められる場合のみ採用されている<sup>2)</sup>。

2020年4月より、2年が経過した現在、学生は遠隔授業をどのように受け止めているのだろうか。2022年度前期を終えた時点での学生の学習活動の一端を明らかにし、後期に向けた対策を検討することを目的に、加えて、ポストコロナ期の効果的な遠隔授業の方向性を模索することを目的に、香川大学教育戦略室 (以下「教育戦略室」と表記) によって、遠隔授業に関するアンケート調査が企画された<sup>3)</sup>。教育戦略室からの依頼を受け、教学IR部運営会議のメンバーである筆者が、2022年7月に実施された本学の全学部学生を対象とする調査の結果を分析した。本稿では、その内容を報告する。

なお、具体的な分析内容の報告に移る前に、本学において既に実施された遠隔授業に関するアンケート調査について整理しておきたい。2020年4月から2022年4月までの期間に、本学では、複数の遠隔授業に関するアンケート調査が実施された。そのうち、2020年8月、および2021年2月に実施された学生対象のアンケート調査が、本調査の前段階として位置づく調査である。それぞれ、2020年8月実施の調査の結果は本紀要の第18号 (葛城、2021) に、2021年2月実施の調査の結果は第19号 (小坂・西本、2022) に掲載されている。本調査の質問項目は、それらの調査結果を参考に作成され、一部の項目については過去の結果と比較しながら分析を行った。

あらかじめ本アンケート調査の活用について述べると、調査実施後、教育戦略室にて検討を行い、2022年9月末に、教員及び学生向けに、調査結果の報告と「大学として対応する事項」、「学生に協力・努力を求めたい事項」が示された。詳細は、本稿の「4. おわりに」

で述べるが、アンケート調査によって明らかになった遠隔授業に対する学生の不満に対して、教職員の改善、学生の協力・理解を求める文書が示されたということである。こうした、学生の声を聴くしくみを検討するためにも、ここでは、本アンケート調査の分析結果を報告しておきたい。

## 2. 調査の方法

本調査は、2022年7月8日～20日に実施した。調査方法は、Microsoft Formsを用いたオンラインアンケートを採用し、学内メールで回答用URLを配信した。調査の目的、個人情報の保護について文面で説明し、同意いただけた場合、調査に協力いただいた。

調査項目の作成にあたっては、2020年8月調査、および2021年2月調査を参考にした。「遠隔授業の履修状況」、「授業タイプ別の満足度」、「授業タイプ別の理解度」、「遠隔授業で困っていること」、は2020年8月調査、2021年2月調査両方と共通の項目である。また、「改善すべき課題」、「遠隔授業を主とする授業」、は2021年2月調査と共通の項目である。これらの項目に、全国学生調査で聞かれている「遠隔授業の良かった点」、「遠隔授業の良くなかった点」をつけ加え、調査項目を作成した<sup>4)</sup>。本稿では、これらの項目のうち、「遠隔授業の履修状況」、「授業タイプ別の満足度」、「授業タイプ別の理解度」、「遠隔授業で困っていること」、「改善すべき課題」、「遠隔授業を主とする授業」、について報告する。

調査対象者は、全学部学生である。有効回答者数は1,035名であり、2022年5月1日現在学生数である5,664名を母数とした場合の有効回答率は18.3%である。本稿では、有効回答者のうち、全学共通教育を多く受講しているであろう2022年度入学生、すなわち2022年度の1年生、415名を分析対象とする。

表1 有効回答者の概要

	全体	教育学部	法学部	経済学部	医学部	創造工学部	農学部
2022年度入学生	415	75	37	81	74	98	50
	32.4%	44.9%	23.1%	30.7%	38.1%	28.7%	32.7%
2021年度入学生	302	54	32	81	33	59	43
	23.2%	32.5%	20.8%	30.6%	14.9%	17.6%	26.5%
2020年度入学生	190	42	33	35	25	35	20
	14.6%	24.4%	20.6%	12.4%	13.4%	10.0%	13.4%
2019年度入学生	98	21	11	15	20	19	12
2018年度入学生	19	1	0	1	9	5	3
2017年度以前入学生	11	0	0	0	8	3	0
全体	1035	193	113	213	169	219	128

注：値は有効回答者数で、パーセンテージは有効回答率。

表1は、有効回答者の概要を示したものである。2022年度入学生をみると、回答者割合が最も大きいのが教育学部で44.9%（75名）、最も小さいのが法学部で23.1%（37名）であることが確認できる。以下では、参考値として学部別の値を掲載し、適宜学部の特徴にも言及する。しかし、決して十分ではない有効回答率をもとに分析を行わなければならないことは、本調査の限界としてあらかじめ付記しておきたい。

### 3. 調査の結果

#### 3-1. 遠隔授業の履修状況

まず、2022年度前期の遠隔授業の履修状況について確認したい。表2は、2022年度前期に受講した授業の合計時間を100%とした場合、遠隔で受講した授業の割合はどのくらいか問い、得られた結果である。ここから、「1-3割」と回答した者が最も多く、73.5%となっていることがわかる。2022年度前期時点、本学の方針は対面授業を基本としており、遠隔授業は、一部科目においてのみとり入れられている。表2は、その方針と変わらない結果を示している。学部別にみると、経済学部が「1-3割」42.0%、「4-6割」45.7%となっており、他学部と比べると遠隔授業の割合が大きい傾向が読みとれる。なお、本学では、全学共通教育科目にて、完全オンデマンド型のeラーニングの必修科目「情報リテラシーB」が開講されているため、「0割」としている学生は、実際にはこれほど多くないものと考えられる。

表2 遠隔で受講した授業の割合

	全体		教育学部		法学部		経済学部		医学部		創造工学部		農学部	
0割	39	9.4%	13	17.3%	1	2.7%	2	2.5%	6	8.1%	3	3.1%	14	28.0%
1-3割	305	73.5%	53	70.7%	34	91.9%	34	42.0%	66	89.2%	83	84.7%	35	70.0%
4-6割	54	13.0%	7	9.3%	2	5.4%	37	45.7%	1	1.4%	7	7.1%	0	0.0%
7-9割	9	2.2%	2	2.7%	0	0.0%	5	6.2%	0	0.0%	2	2.0%	0	0.0%
9割以上	8	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.7%	1	1.4%	3	3.1%	1	2.0%

表3から表8までは、2022年度前期に遠隔授業を受講した者、すなわち、表2において、「1-3割」「4-6割」「7-9割」「9割以上」のいずれかに該当する者のみ回答してもらった結果である。表3は、2022年度前期に次の形態の遠隔授業を受講したか問い、得られた結果である。ここからは、「オンデマンド型」が97.1%とほぼ全員が該当しているのに対し、「リアルタイム型」が86.4%と若干少なくなっていることが確認できる。学部別にみると、「リアルタイム型」の該当者の割合は、医学部66.2%、農学部66.7%となっており、他学部と比べると小さくなっている。

表3 リアルタイム型・オンデマンド型授業を受講した経験

	全体		教育学部		法学部		経済学部		医学部		創造工学部		農学部	
リアルタイム型	325	86.4%	60	96.8%	31	86.1%	72	91.1%	45	66.2%	93	97.9%	24	66.7%
オンデマンド型	365	97.1%	58	93.5%	36	100%	75	94.9%	67	98.5%	94	98.9%	35	97.2%

## 3-2. 授業タイプ別の満足度

続く表4・5は、総合的に判断して、次の授業形態に満足しているか問い、得られた結果である。表4はリアルタイム型、表5はオンデマンド型の結果を示している。

表4 リアルタイム型の満足度

	全体	教育学部	法学部	経済学部	医学部	創造工学部	農学部	全体 (2020年度 2月調査)
満足している	32.4%	33.9%	36.1%	50.6%	25.0%	27.4%	13.9%	18.8%
ある程度満足している	42.0%	53.2%	38.9%	31.6%	33.8%	50.5%	41.7%	60.3%
やや不満である	10.9%	8.1%	8.3%	8.9%	7.4%	16.8%	13.9%	14.3%
不満である	1.6%	1.6%	0.0%	1.3%	1.5%	3.2%	0.0%	6.3%
受講していない	13.0%	3.2%	16.7%	7.6%	32.4%	2.1%	30.6%	0.3%

表5 オンデマンド型の満足度

	全体	教育学部	法学部	経済学部	医学部	創造工学部	農学部	全体 (2020年度 2月調査)
満足している	47.3%	43.5%	55.6%	57.0%	44.1%	41.1%	47.2%	35.2%
ある程度満足している	41.0%	37.1%	41.7%	31.6%	41.2%	48.4%	47.2%	47.7%
やや不満である	8.2%	12.9%	2.8%	5.1%	11.8%	9.5%	2.8%	11.8%
不満である	1.1%	1.6%	0.0%	1.3%	1.5%	0.0%	2.8%	3.5%
受講していない	2.4%	4.8%	0.0%	5.1%	1.5%	1.1%	0.0%	1.7%

ここからは、リアルタイム型・オンデマンド型ともに満足している者が多いことが確認できる。リアルタイム型は、「満足している」32.4%、「ある程度満足している」42.0%となっており、合計すると7割超の学生が満足している。また、オンデマンド型は、「満足している」

47.3%、「ある程度満足している」41.0%となっており、合計すると約9割の学生が満足している。加えて、この結果を、2021年2月に実施した前回調査(表中では、「2020年度2月調査」と表記。以下同様。)と比較すると、「満足している」が増えていることもわかる。前回調査では、リアルタイム型の「満足している」の該当者は18.8%、オンデマンド型の「満足している」の該当者は35.2%だった。2020年4月以降、2年の時を経て、教員も学生も遠隔授業に慣れてきた。表4・5は、その結果を示しているのかもしれない。

### 3-3. 授業タイプ別の理解度

表6・7は、総合的に判断して、次の授業形態の理解度はどの程度か問い、得られた結果である。表6はリアルタイム型、表7はオンデマンド型の結果を示している。

表6 リアルタイム型の理解度

	全体	教育学部	法学部	経済学部	医学部	創造工学部	農学部	全体 (2020年度 2月調査)
ほとんど理解できている	25.8%	27.4%	30.6%	32.9%	26.5%	15.8%	27.8%	15.0%
ある程度理解できている	51.6%	62.9%	50.0%	49.4%	36.8%	63.2%	36.1%	63.1%
あまり理解できていない	9.0%	6.5%	5.6%	10.1%	4.4%	15.8%	5.6%	18.8%
ほとんど理解できていない	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	2.8%
受講していない	12.8%	3.2%	13.9%	7.6%	32.4%	2.1%	30.6%	0.3%

表7 オンデマンド型の理解度

	全体	教育学部	法学部	経済学部	医学部	創造工学部	農学部	全体 (2020年度 2月調査)
ほとんど理解できている	30.6%	32.3%	27.8%	34.2%	33.8%	18.9%	47.2%	24.4%
ある程度理解できている	55.3%	54.8%	55.6%	51.9%	52.9%	67.4%	36.1%	61.7%
あまり理解できていない	10.9%	8.1%	13.9%	10.1%	10.3%	11.6%	13.9%	10.1%
ほとんど理解できていない	1.3%	1.6%	2.8%	0.0%	1.5%	1.1%	2.8%	2.1%
受講していない	1.9%	3.2%	0.0%	3.8%	1.5%	1.1%	0.0%	1.7%

ここからも概して肯定的な結果が確認できる。リアルタイム型・オンデマンド型ともに理解している者が多かった。リアルタイム型は、「ほとんど理解できている」25.8%、「あ

る程度理解できている」51.6%となっており、合計すると約8割の学生が理解している。また、オンデマンド型は、「ほとんど理解できている」30.6%、「ある程度理解できている」55.3%となっており、合計すると約9割の学生が理解している。また、この結果を、前回調査と比較すると、「ほとんど理解できている」が増えていることもわかる。前回調査では、リアルタイム型の「ほとんど理解できている」の該当者は15.0%、オンデマンド型の「ほとんど理解できている」の該当者は24.4%だった。表6・7の遠隔授業の理解度についても、教員及び学生の慣れが結果に影響を及ぼしていると考えられる。

### 3-4. 遠隔授業で困っていること

表4～7では、概して遠隔授業の満足度と理解度が高いことが確認できた。しかしながら、遠隔授業特有の困りごとを学生から聞く機会もある。そこで、アンケートでは、遠隔授業で困っていることについても聞いた。表8は、遠隔授業で困っていることは何か問い、得られた結果である。

表8 遠隔授業で困っていること

	全体	教育学部	法学部	経済学部	医学部	創造工学部	農学部
利用しているインターネット環境が貧弱である	41.2%	48.4%	33.3%	41.8%	48.5%	41.1%	22.2%
授業が分かりにくい	28.5%	29.0%	19.4%	30.4%	25.0%	32.6%	27.8%
授業課題が多い	56.6%	66.1%	52.8%	51.9%	61.8%	52.6%	55.6%
遠隔授業の受け方（ルール等）についての説明	31.9%	37.1%	38.9%	25.3%	27.9%	34.7%	30.6%
授業課題についての説明が不十分である	34.0%	41.9%	25.0%	35.4%	26.5%	36.8%	33.3%
授業課題の提出がなされているか確認できない	27.1%	24.2%	16.7%	29.1%	38.2%	20.0%	36.1%
受講生同士のつながりがない	75.8%	83.9%	77.8%	67.1%	76.5%	75.8%	77.8%
対応できない（しにくい）ことを求められる	30.1%	38.7%	38.9%	16.5%	26.5%	32.6%	36.1%
質問をしにくい	64.6%	64.5%	72.2%	55.7%	67.6%	65.3%	69.4%
集中しにくい	48.4%	53.2%	63.9%	48.1%	39.7%	47.4%	44.4%
孤独感がある	33.2%	40.3%	38.9%	26.6%	30.9%	32.6%	36.1%
教室や実家で受講する場合に、周囲に気を遣う	46.8%	50.0%	47.2%	31.6%	51.5%	53.7%	47.2%
遠隔授業と対面授業が混在している	55.1%	62.9%	55.6%	67.1%	42.6%	47.4%	58.3%

ここから、該当者が半数を超えている項目をみると、割合が大きいものから順に、「受講生同士のつながりがない」75.8%、「質問をしにくい」64.6%、「授業課題が多い」56.6%、「遠隔授業と対面授業が混在している」55.1%、が挙げられる。なお、「受講生同士のつながりがない」については、特に入学したばかりの1年生に顕在化しやすい困りごとだと考えられる。表として掲載していないが、同項目の2・3年生の該当者割合は、56.1%にとどまっていた。もちろん、その点を差し引いたとして、該当者の割合が半数を超えている項目については何らかの対策が必要である。この点については、「4. おわりに」で、教育戦略室の対応について説明したい。

### 3-5. 改善すべき課題

表3から表8までは、2022年度前期に遠隔授業を受講した者のみに回答してもらった結果だったが、表9以降はすべての者に回答してもらった結果を示している。表9は、今後、香川大学における遠隔授業を充実させていくうえで、改善すべき課題はなんだと思うか問い、得られた結果である。

この質問については、すべての項目の該当者の割合が半数を超えていることが確認できる。該当者割合が大きいものから順に、「インターネット環境が貧弱な学生へのサポート」75.4%、「学内で周囲を気にせず受講できる環境」74.0%、「講義資料の印刷」65.3%、「授業課題が多い」64.6%、「遠隔授業の受け方（ルール等）についての説明」56.9%、「受講生同士のつながり（グループワーク等）」56.6%となっていた。これらの点についても、対策が必要とされており、このアンケート調査の結果を経て、実際に、教育戦略室から学生宛にメッセージが発せられている。詳細は、次章の「4. おわりに」で、説明したい。

表9 改善すべき課題

	全体	教育学部	法学部	経済学部	医学部	創造工学部	農学部
インターネット環境が貧弱な学生へのサポート	75.4%	77.3%	70.3%	74.1%	81.1%	74.5%	72.0%
授業課題が多い	64.6%	66.7%	64.9%	63.0%	78.4%	55.1%	62.0%
遠隔授業の受け方（ルール等）についての説明	56.9%	58.7%	59.5%	50.6%	60.8%	56.1%	58.0%
受講生同士のつながり（グループワーク等）	56.6%	64.0%	40.5%	59.3%	59.5%	57.1%	48.0%
学内で周囲を気にせず受講できる環境	74.0%	77.3%	75.7%	65.4%	78.4%	77.6%	68.0%
講義資料の印刷	65.3%	64.0%	64.9%	70.4%	64.9%	61.2%	68.0%

### 3-6. 遠隔授業を主とする授業

最後に、学生たちがどのような授業を遠隔授業として望んでいるのか確認したい。表 10 は、どのような授業は遠隔授業を主とする授業でもよいと思うか問い、得られた結果である。この結果からは、講義中心の授業、個人での活動が多い授業は遠隔授業でもかまわないと思っている学生が多いことが確認できる。それぞれ、「講義中心の授業」の該当者割合は 75.2%、「個人での活動が多い授業」の該当者割合は 63.9%となっていた。一方、グループでの活動が多い授業、教員と学生とのやりとりの多い授業については、遠隔授業の導入に否定的である。それぞれ、「グループでの活動が多い授業」の該当者割合は 33.0%、「教員と学生とのやりとりの多い授業」の該当者割合は 40.0%にとどまっていた。

表 10 遠隔授業を主とする授業

	全体	教育学部	法学部	経済学部	医学部	創造工学部	農学部
講義中心の授業	75.2%	69.3%	75.7%	74.1%	78.4%	73.5%	84.0%
個人での活動が多い授業	63.9%	65.3%	59.5%	69.1%	55.4%	68.4%	60.0%
グループでの活動が多い授業	33.0%	34.7%	21.6%	37.0%	35.1%	32.7%	30.0%
教員と学生とのやりとりの多い授業	40.0%	41.3%	16.2%	51.9%	40.5%	38.8%	38.0%

## 4. おわりに

本稿は、コロナ禍における香川大学生の学習活動の一端を、遠隔授業との関係に着目しながら明らかにすることを目的として、2022年7月に実施した遠隔授業に関するアンケートの調査結果を報告した。明らかになったのは、次の5点である

- ・遠隔で受講した授業の割合は、「1-3割」(73.5%)と回答した者が最も多かった。
- ・遠隔授業の満足度は高く、リアルタイム型は7割超、オンデマンド型は約9割の学生が満足していると回答した。
- ・遠隔授業の理解度も高く、リアルタイム型は約8割、オンデマンド型は約9割の学生が理解していると回答した。
- ・遠隔授業で困っていることについては、「受講生同士のつながりが無い」(75.8%)、「質問をしにくい」(64.6%)、「授業課題が多い」(56.6%)、「遠隔授業と対面授業が混在している」(55.1%)の項目の該当者が半数を超えていた。
- ・改善すべき課題については、「インターネット環境が貧弱な学生へのサポート」(75.4%)、「学内で周囲を気にせず受講できる環境」(74.0%)、「講義資料の印刷」(65.3%)、「授業課題が多い」(64.6%)、「遠隔授業の受け方(ルール等)についての説明」

(56.9%)、「受講生同士のつながり（グループワーク等）」(56.6%)の項目の該当者が半数を超えていた。

これらの点からは、2022年度前期の1年生が受講する遠隔授業の割合は、1-3割と決して多くないこと、その満足度や理解度は高いことが確認できる。しかしながら、遠隔授業においてネガティブな側面がないわけではなく、困っていることや改善すべき課題も挙げられている。最後に、これらの課題について、教育戦略室がどのように対応したのか説明し、結びとしたい。

2022年7月に実施した遠隔授業に関するアンケートの調査結果を受け、教育戦略室は、9月末に、教員及び学生向けに、「大学として対応する事項」、「学生に協力・努力を求めたい事項」を示した。「大学として対応する事項」は、(1) 授業終了時間の厳守、(2) 遠隔授業を受講する教室についての配慮・指導、(3) 通信が遅くなる場合の対応、(4) 学生への早めの連絡、(5) 授業方法の工夫、に分けられる。また、「学生に協力・努力を求めたい事項」は、(1) 遠隔授業・対面授業の混在の問題、遠隔授業拡大の希望、(2) 日程の混乱、(3) 荷物の問題、(4) レポート等の課題、に分けられる。

これらの多くは、遠隔授業に関するアンケートの調査のうち、自由記述の結果に対応するものであり、残念ながら本稿では紹介できていない。しかし、一部の項目、すなわち、「大学として対応する事項」の(5) 授業方法の工夫、及び、「学生に協力・努力を求めたい事項」の(4) レポート等の課題、については、本稿でこれまでに検討してきた調査結果への対応でもある。前者は、教員に対して、遠隔授業で困っていること、改善すべき課題として、受講生同士のつながりが挙げられることに配慮して、授業の改善を行うように求めるものである。後者は、学生に対して、遠隔授業の改善すべき課題として、授業課題が多いことが挙げられるが、授業外学修の考え方について、今一度確認するように説明するものである。

これらの対策がどのような効果を発揮するかは現時点では明らかでない。しかし、これまで報告してきたように、遠隔授業に関するアンケート調査が実施され、そこで抽出された学生の意見に対して、教育戦略室という本学の教育のコントロールタワーが検討し、教職員及び学生に対して説明、必要に応じて改善を求める、という一連の作業は、大学のありべき姿だといえるだろう。「1. はじめに」においても述べたとおり、本学は、対面授業を基本として、感染防止上困難な場合、あるいは教育効果が認められる場合のみ遠隔授業とする方針を採用している。学生と教職員との対話の中で、ポストコロナ期の効果的な遠隔授業を模索することが期待されている。

## 謝辞

本アンケートにご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

## 注

- 1) 2020 年度後期以降、「原則オンラインとする」方針から「オンラインを基本とする」方針へと切り替わり、個々の授業担当者が実施形態を選択することが可能となった。一部の講義科目、及び実験実習科目等については、対面で授業が行われている。「令和 3 年度の授業実施に係る基本方針について」（令和 3 年 3 月 4 日付）において、「授業は、感染防止対策を講じたうえで、対面により実施することを基本とする。」と示された。
- 2) ただし、2021 年 5 月の大型連休以降 6 月 8 日までは、感染拡大に伴う緊急の特別措置で原則遠隔授業とされた。
- 3) 2022 年 7 月に実施された「遠隔授業に関するアンケート」の結果は、2022 年 9 月の全学教務委員会、教育研究評議会にて報告されている。本稿は、その結果の一部を報告するものである。
- 4) 「全国学生調査」については次のサイトを参照されたい。文部科学省「全国学生調査」  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/chousa/1421136.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/chousa/1421136.htm) < 2023 年 1 月 16 日アクセス >

## 参考文献

- 香川大学教育戦略室（2022）「「遠隔授業に関するアンケート調査」結果報告」（香川大学 Moodle 掲載資料）
- 小坂有資・西本佳代（2022）「コロナ禍における学生の学習活動—2020 年 8 月と 2021 年 2 月調査の比較—」『香川大学教育研究』第 19 号、73-79 頁。
- 葛城浩一（2021）「コロナ禍における学生の学習活動及び教員の教育活動の実態」『香川大学教育研究』第 18 号、77-90 頁。